

に逃している魚が大きいのでは？



* 「失敗した！大きかったぞ、あの魚。お化けみたいなのを逃した！」という言葉は釣りから手ぶらで帰って来た釣り人の話。

—やせた野うさぎしか獲れず逃した猪の方の自慢話をするハンター

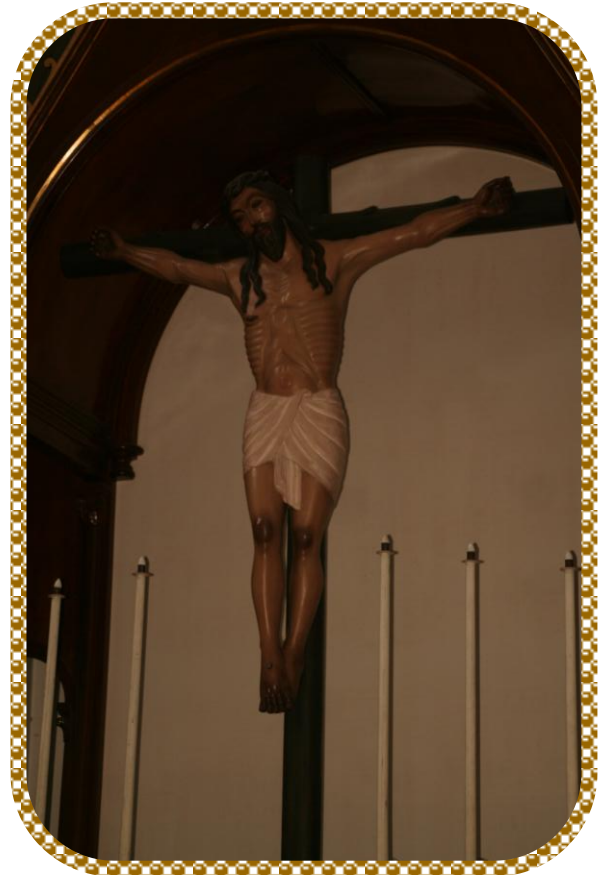
—結婚相手を選んだ時に、心が通っている人ではなく、金を目当てに配偶者にした人が数年も経たないうちに「逃げた魚」となったことを残念がる人。

・「逃がした魚」は大きい。けれども逃がした魚は二度と戻ってこない。あとの祭りだ。

＝勉強を怠けた学生時代。引きこもりの青春。社会、政治、行政の動きに対する無関心の日々。—つい最近、オブラートに包まれたまま一つの「法案」が可決されました。曖昧な表現が多い上に、重い、暗い、怖い影を漂わせる「法案」、5年、10年、

20年先、「平和」という大きな魚、お化けみたいに大きい魚を逃がしてしまったと人が悔やむことのないように祈ります。

●こういうことは「自分の信仰と関係ない」と未だに思いがちな方は少なくないようですが、事が起こった時にそれはいかに関係があったかを思い知らされるかもしれません。—しかし、その時に「大きな魚を逃して」しまったと嘆いたとしても遅すぎます。



* 学校行事、塾、クラブ活動、仕事、レジャー、人間として生きる上で、それらのことは非常に大切なものです。しかし、主イエス・キリストを信じる人は、それに没頭し、いつもそれを優先しているために、

生きた信仰を養い、支え、育て、成長させることをないがしろにすれば、選択する時に信仰に生きるための努力の重要性や大切さを頭から退け「選択なんか」そのことさえ考えようとしなければなおさら、「逃がしてしまう魚」は大きいのではないのでしょうか。私たちの信仰の泉と礎である福音書を読むとわかるように、人の人生、自分の人生を評価する時に、神は、「葬儀が教会で行われたか」「遺骨がカトリック納骨堂に納められているか」などのことに基づいて判断をされるものではありません

—私たちはどこまで、十分にそのことを認識しているのでしょうか。

しかし、主イエス・キリストを信じる以上、私たちにこのような態度が許されていないことを新たに自覚する必要があるように思います。



—ただ世間、メディア、商業に誘導され、流されているだけなのに、多くの人々は「自分が自由だ」と思い込み、実は錯覚を起こしているのではないのでしょうか。—真の自由とは何か。—「目を覚まして生きていなさい」というイエスの言葉に耳を傾けることは、確実な答えへ導いて行くと思います。

—今、自分が何を優先して生きているか。主イエス・キリストを信じる者として度々このように自分に問いかける必要があります。—その努力を避けよう、無視しようとするれば「逃がしてしまう魚」が大きい。お化けみたいに大きい。



* 今、自分の生活、特に自分の信仰生活において「逃がしている魚」とは何か、ということについて考えることは大切なことではないかと思えます。個人的に、キリストの共同体の一員として、社会人として。今、自分は「面倒くさいから」、「興味ないから」、「今そんなところじゃない」などの理由で簡単に怠け、軽い気持ちで責任のすり替えをしているのではないのでしょうか。